

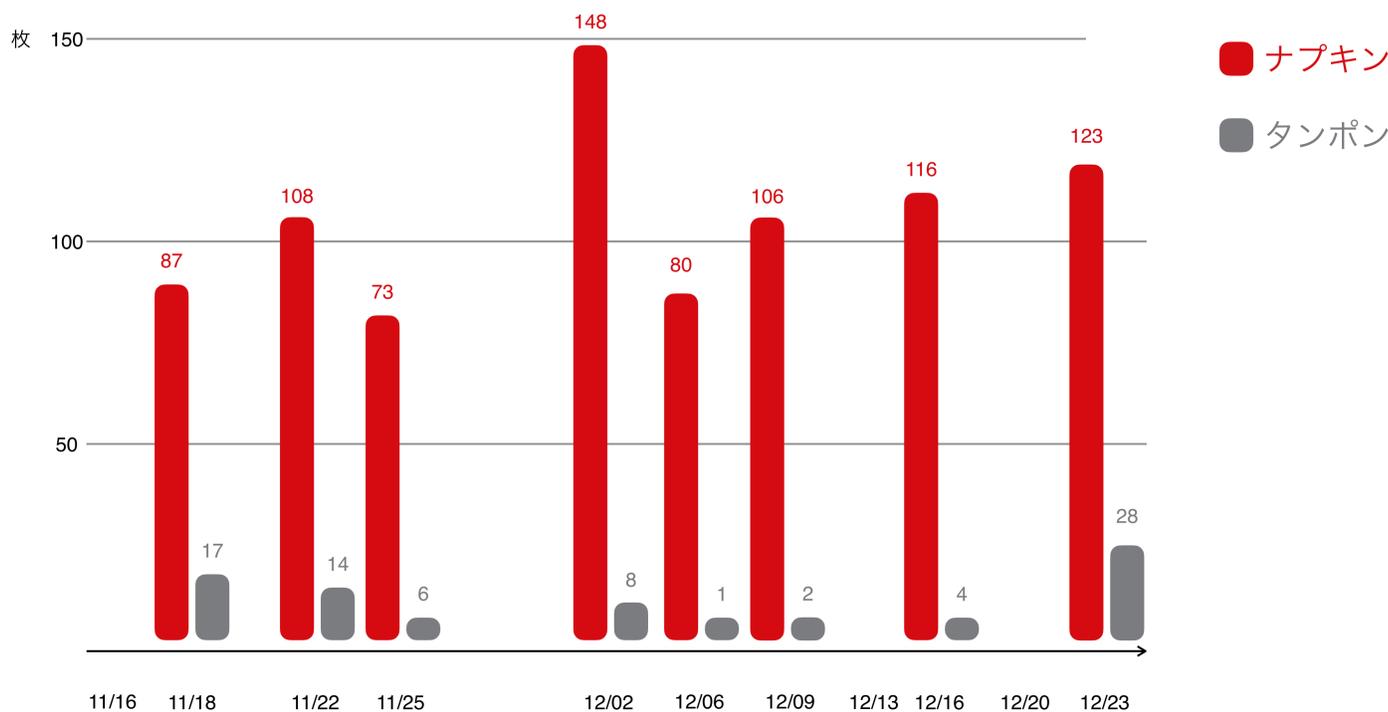
金沢西高校におけるトイレ個室での生理用品の無償提供プロジェクト 最終報告書

オモテテ株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役：高堰うらら）と、金沢大学 学生団体 WannaBeMEは、石川県立金沢西高校の生理が来る生徒約494名※に対して生理用品の無償提供及びアンケート（以下本プロジェクト）を行いましたので、その結果をお知らせ致します。

■ 実証実験成果

対象者	金沢西高校の生徒 15歳～18歳 生徒約494名※
実施期間	2021年11月16日～12月23日
実証実験内容	合計46個室のトイレ内にナプキン 10枚、タンポン6個を入れたボックスを設置し週2で補充。

本プロジェクトでは高校生を対象に生理の悩みの調査、及び生理用品の無償提供をしました。プロジェクトの実施期間は約1.5ヶ月、メンバーが週2回学校へ補充のために伺い、合計46個室トイレで生理用品を入れたボックスで合計841枚のナプキンと、80個のタンポンを生徒たちへ支給しました。ナプキンを取得した生徒は約51%(181名)で、平均のナプキン取得枚数は 1.98枚でした。



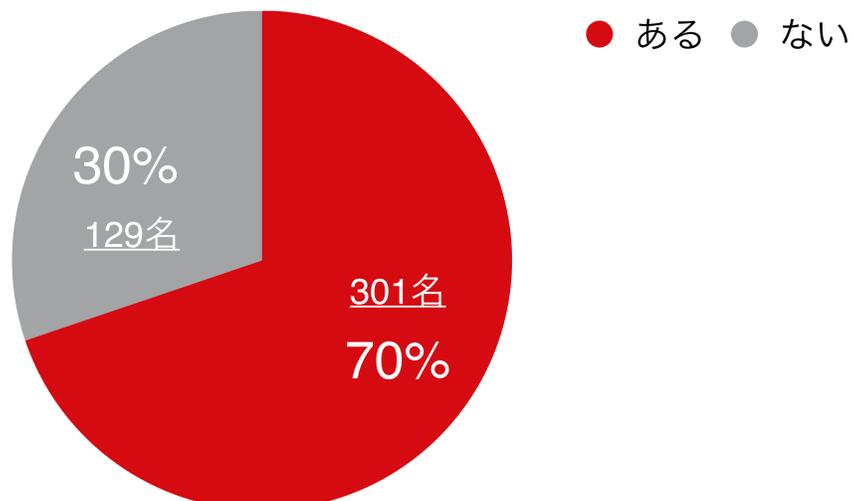
ナプキン及びタンポンの補充枚数推移（生理が来る生徒約494名※対象）

■ 事前アンケート

調査対象	金沢西高校の生徒 15歳～18歳 生理が来る方約430名※、生理が来ない方約288名※
実施期間	2021年11月10日～11月12日
調査手法	先生よりGoogle FormsのQRコード記載の用紙を配布し、スマートフォンより回答いただいた。

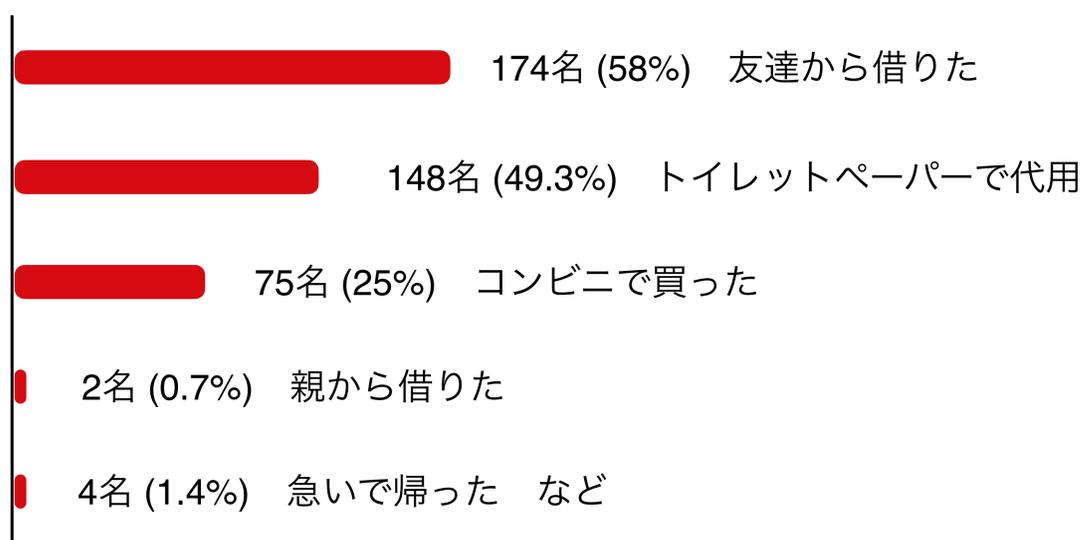
実証実験の前に、高校生の生理及び生理グッズに関する悩みや現状を調査するためのアンケートを実施しました。外出時に急に生理になり困ったことがある方は約70%（301名）で、その多くの方が友人から借りたり、トイレットペーパーで代用していることが明らかになりました。生理グッズが職場や学校、商業施設に置いてあったら嬉しいと回答した方は約95%（408名）いました。

外出している時に急に生理になり困ったことはありますか？



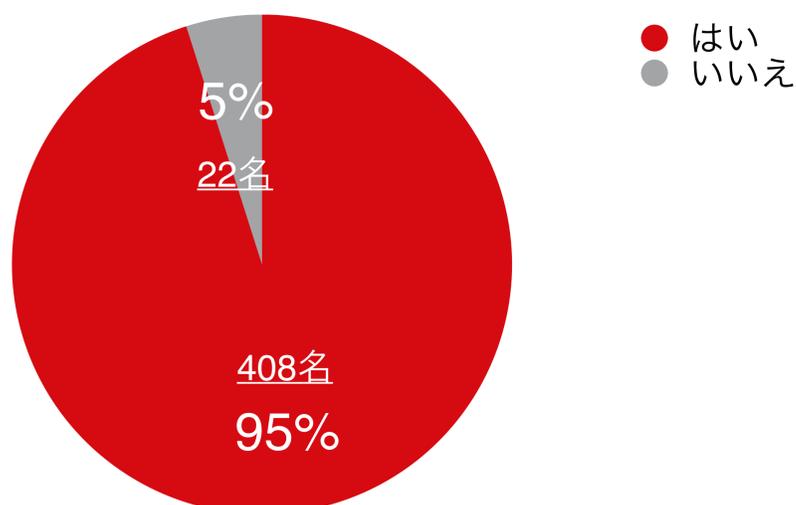
外出時に困った経験がある人（生理が来る方約430名※対象）

はいと答えた場合、どのように対処しましたか？（複数回答可）



生理用品を持ち合わせていない場合の対処（生理が来る方約301名※回答）

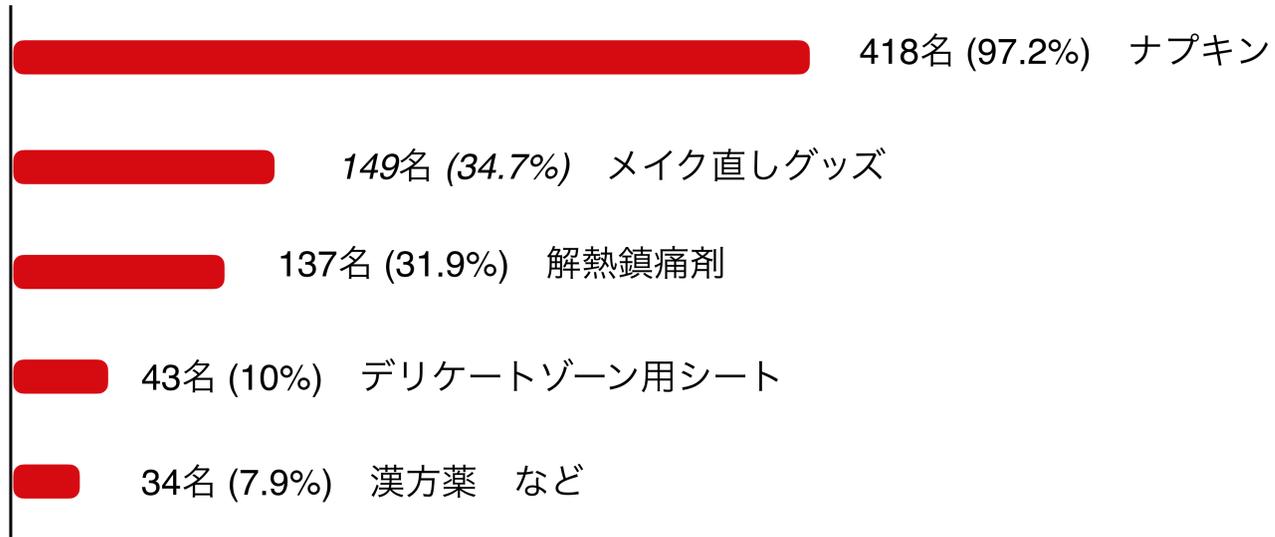
生理グッズが職場や学校、商業施設に置いてあったら嬉しいですか？



生理グッズの設置を求める声（生理が来る方約430名※回答）

※ 女子生徒の全員が生理が来る方ではない、男子生徒の全員が生理が来ない方ではない可能性も踏まえ、人数は全て「約」を記載しています。

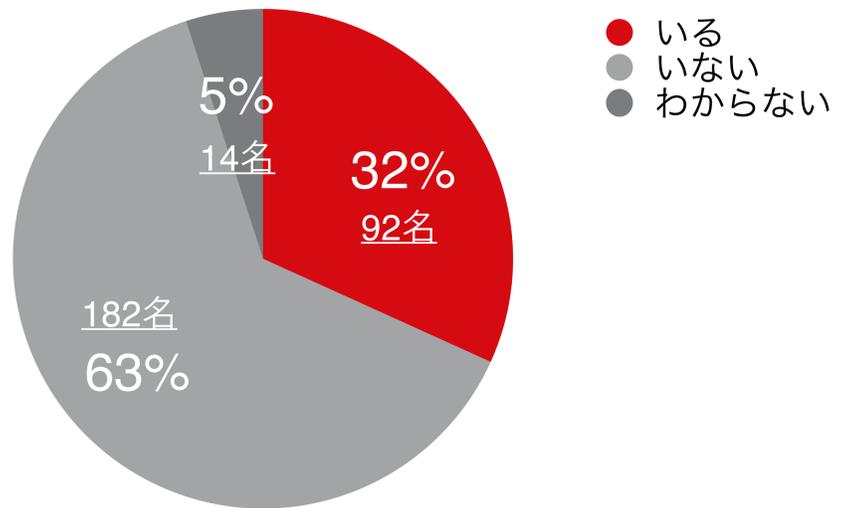
職場や学校、商業施設のトイレにあったら嬉しいものを全て選択してください（複数回答可）



外出時に困った経験がある人（生理が来る方約430名※対象）

さらに、生理が来ない方にも実施したアンケートでは生理について話すのは「恥ずかしい」「気まずい」という意見が多く挙がり、生理について質問したいときに聞ける人がいないと回答した人は約63%という結果でした。自由記述では「女性だけでなく男性も生理について考えていくべきだと思った」というような意見も見受けられ、今後も高校と連携して生理用品の無償提供の継続及び、希望した生徒を対象に高校生が主体的に本プロジェクトのような活動に取り組めるための学びのサポートを検討していきます。

生理について質問がしたい時に聞ける人はいますか？



生理について話した経験について（生理が来ない方約288名※）

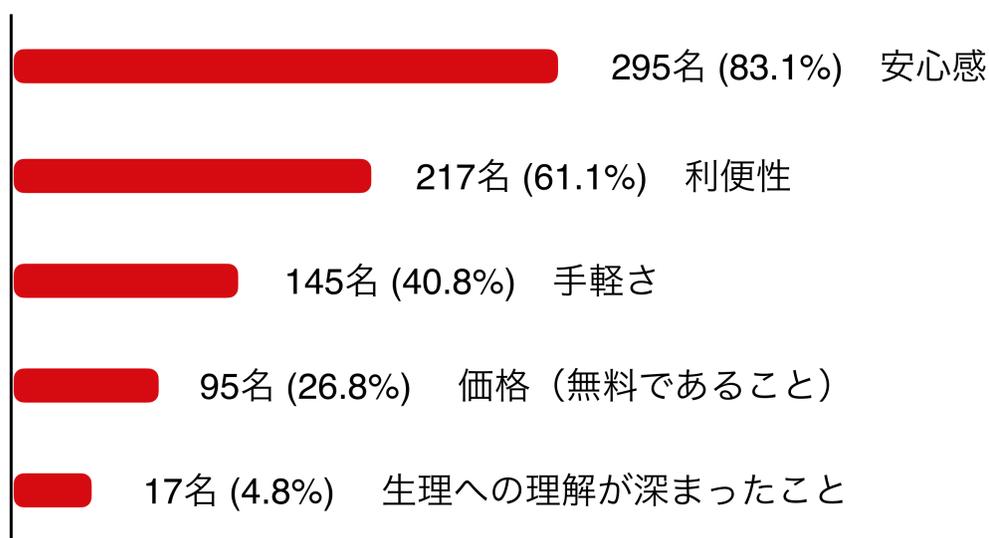
※ 女子生徒の全員が生理が来る方ではない、男子生徒の全員が生理が来ない方ではない可能性も踏まえ、人数は全て「約」を記載しています。

■ 事後アンケート

調査対象	金沢西高校 の生徒 15歳～18歳 生理が来る方約355名※
実施期間	2021年12月23日～12月26日
調査手法	先生よりGoogle FormsのQRコード記載の用紙を配布し、スマートフォンより回答いただいた。

実証後のアンケート回答にて、この企画の良かった点について「安心感」があったと回答した人が83.1%と最も多く、次に「利便性」と回答した人が61.1%でした。生理期間中にストレスを感じている生徒たちに対してに安心感を提供するとともに学校生活における利便性の向上にも寄与しました。また、こういった取り組みがなくなると残念だと感じる人の割合は94.1%となり、多くの継続を望む声が得られました。

この企画の良かった点はなんですか？(複数回答可)



(利用者が回答する企画の良かった点に対する意見 (生理が来る方約355名※))

自由コメント

トイレにナプキン が置いてあることが安心感または精神的支えとなったという意見

- 学校でも他の場所でもこのプロジェクトを続けてほしい。
- 実際にトイレに行って生理になったことに気付いたことがあったのととてもありがたかった。
- トイレに設置してあるかないとでは気持ちの負担が全然違ったので、すごく助かりました。これからも設置してほしいです。
- 教室からポーチを持っていくのも恥ずかしいときがあるので、とてもいいプロジェクトだと思った。
- トイレに無料で使えるナプキンが置いてあると、もし家からナプキンを持っていくのを忘れたときに安心なのでいいと思いました。
- ナプキンを持っていない時でも安心できるのでこれからも続けて欲しい。

■ 今後の展開

今回の調査を通じて、学校およびそれ以外の場所へのナプキン設置を望む生徒の声を多く確認できました。今後は、今回の実証と同様に先生方には手間をかけない前提で、金沢西高校への生理用品の無償提供を継続することを検討するとともに、他校への展開についても検討を進めていきます。さらに、高校生だけではなく、中学生、大学生や、社会人に対してもこの取り組みをしていけると良いと考えています。そして将来的には「生理用品を提供するインフラの開発・導入を通じて、メンストレーター（生理が来る方）が安心できる」社会の実現を目指しています。

■ 各社/団体コメント

オモテテ株式会社 代表取締役 CEO 高堰うらら

生理・生理用品にまつわる悩みは多様で、生理用品を買うことができないという経済的な側面に限らず悩む方が多いです。本プロジェクトは、施設や街の設計において生理と向き合う人々の視点が十分考慮されてこなかったのではないかと、生理にまつわる不安・不便はどのように解消できるのか、という問題意識から始まりました。アンケート結果からも、トイレの個室で生理用品が提供されていることで安心して学校生活を送ることができた、とても便利だったという声も多く上がりとても嬉しく思いました。金沢市で行った本プロジェクトについては金沢大学学生団体WannaBeME、そして金沢西高校の先生方の協力によって実施することができました。今後も多くの方とともに、生理でも安心して暮らせる街そして社会の実現を目指します。

金沢大学 WannaBeME 代表 嵐柴綾

今回私たちは、実証実験の策定と現地補充スタッフとしてこのプロジェクトに参加させていただきました。昨今全国的にも生理用品を無償でトイレに設置する取り組みが行われていますが、このプロジェクトの重要な点は、生理用品を提供される側の意識がこの実験の前後でどのように変わったのか、女性だけでなく男性の意見も含めて知ることができたということです。

実際に現地に赴き、このプロジェクトを行う場を教育機関に定めたことも、とても意味のあることであったと強く感じています。

「生理の貧困」という言葉だけではなくその本質を学ぶ素晴らしい機会をいただき、本当にありがとうございました。